

招待席

## 伊良子 清白

いらこ せいはいく 詩人 1877 - 1946 鳥取県に生まれる。 医師。河井醉茗、横瀬夜雨とともに「文庫」派の三羽鳥と称せられ、約二百篇から十八篇を厳選した明治三十九年(1906)刊唯一の詩集『孔雀船』の透徹した境涯で知られる。 掲載作は、保険の診査医として僻村を渡り歩いていた頃の作で、最終連は青木繁の絵「海の幸」との契合が指摘されている。

## 淡路にて

古翁(ふるおきな)しま國(くに)の  
野にまじり覆盆子(いちご)摘(つ)み  
門(かど)に来て生鈴(いくすゞ)の  
百層(もゝさか)を驕(おご)りよぶ

白晶(はくしやう)の皿をうけ  
鮮(あざら)けき乳(ち)を灑(そゝ)ぐ  
六月の飲食(おんじき)に  
けたゝまし虹(にじ)走る

清涼(せいろう)の里いでゝ  
松に行き松に去る  
大海(おほうみ)のすなどりは  
ちぎれたり絵巻物

鳴門(なると)の子海の幸(さち)  
魚(な)の腹を胸肉(むなじゝ)に

おしあてゝ見よ十人(とたり)  
同音(どうおん)にのぼり来る